

創刊にあたって

受験生の確保が最優先だといっても、やはり大学の使命は教育と研究である。大学の教員は講義やゼミナールなどに熱意を傾けて学生を教育することはもとより重要であるが、学生に対するサービス提供のみに専念して、研究をおろそかにすれば、長期的には教育もできなくなるであろう。

研究については、その成果を発表して世に問うことが重要である。研究発表の場としては、学会での発表や専門誌への投稿、著書の刊行などがある。しかしこれらには各種の制約が伴う。自由に自分の研究の成果を発表できる機能をもつものとして、自分の大学の学部の機関誌があればこれにこしたことはない。

本学には経営学部の専門分野の教員のための機関誌として『作新経営論集』、また一般教養の教員のために『作新学院大学紀要』がある。今回地域発展学部の開設にともない、この学部の専門課程の教員のために、機関誌『作新地域発展研究』の創刊に至ったことはまことに喜ばしい。制約の少ない研究発表の場として活用していただきたいが、あまり水準の低いものが掲載されては、大学の恥になるから、近い将来にレフェリー制度を確立して、学界から注目され、外部からも投稿の集まる専門誌に成長することを期待するものである。

2001年1月

作新学院大学

学長 矢内原 勝